

復興支援フォーラムニュース No. 52

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫 (tkonno67@gmail.com) 中井勝己 (024-548-8313) >

「プロメテウスの罠」から見えたもの

朝日新聞編集委員 依光隆明

①安全神話の内実—国の中枢がスカスカだった

①来るべき人が来なかった

集合率55%。怖かったから？

②司令塔に情報が届かない

1号機爆発

2011年3月12日午後3時36分、爆発。

「5時半に菅さんの執務室のテレビで見てびっくりしちゃった」。

SPEED I

11日午後9時12分に1枚目。16日までに45回、173枚。

③専門家は専門しか分からない

「水素爆発？ 起こりません」

④誰も決断をしない

安定ヨウ素剤

飲まさなければ。声はたくさん出た。消えたファクス

避難区域

SPEED Iが出たあとも。

②なぜそんなことになったのか

①いびつな構図

事業者に丸投げ

無責任な国、プライドと実力の東電。

東電ビデオ会議の重さ

東電「ディスクを破壊することだってできる」

営利企業が目を向ける先。

②国の思惑

最大の狙いは…。

③矛盾はどこで発症したか

①知らされなかった人々

毎時95マイクロ。「いちばん驚いたのはあのとき」

防護服の男。異様な風景。大丈夫なのか。「大丈夫です」

②知らせなかった人々

末端は必死に知らせていた。

支配者と被支配者。象徴的な言葉。「パニックを心配した」

③お国のためVS避難した人たちのため

焦点は賠償。理論的支柱は「いつか戻れる」。

④首長の思惑、避難した人たちの心情

戻りたい人、どこかで早く生活を再建したい人。

④いまの問題点

①ほんとうに津波で壊れたのか。

データを出し渋る東電。 やっと少し見えてきた。鍵は…。

②避難した人たちが取り囲まれている

9000万円の怖さ

風向き次第で世論は変わる。

風評という落とし穴

行き着く先は東電免責。

もうひとつの風評

⑤情報はどうなっているか

①言葉の巧みさ

②何を信じればいいのか

⑥ではどうすればいいのか

①自分で考え、判断するしかない

三春町の教訓

パニックだったのは誰か

②情報の裏を見る

発表する側は常に工夫している。

⑦書く側はどうすればいいのか

①自問自答

②上から書くか、下から書くか

⑧プロメテウスの罫

①いまごろ行っても

②壮大な虚構

③書かねばならぬことばかり

④ひとりひとりの声を聞く

⑤これからのこと

<第49回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

10月24日、第49回ふくしま復興支援フォーラムを開催し、約20名の参加者がありました。「東日本大震災・原発事故から文化財を守る」について、菊地芳朗氏（福島大学教授）から、詳しい報告をいただいたのち、活発な質疑応答が続きました。以下は、提出された文書によるご意見等です。

~~~~~

★ 東日本大震災・原発事故にともなう県内各地の被災地における文化財保護活動の実態と、今後必須となる方向性等についてご教示いただきまして、感謝いたします。同時に、福島大学の「シンクタンク」機能の重要性を認識しました。（K.F）

★ 大変有益で有意義な講義であった。菊地先生の懸命の努力をたたえたい。（S.I）

★ 原発災害の地域に与えた影響の幅の広さと深さに驚きを禁じ得ませんでした。菊地さんに感謝します。（S.M）

★ 未指定も含め、「文化財」を守るため、大震災の記憶を守り続けるためにも、多くの仲間を作り出し、多領域と連携をつくり、仮称「震災ミュージアム」の実現と未来永劫の運営を望まざるをいられません。（T.S）

★ 思いがけず面白かった。（I.O）

★ 浪江の民俗芸能（田植え踊り）の復活は、新聞等で知りましたが、汚染地区の文化財レスキューの大変さ、今回2年半以上経って知りました。一つでも多くの大切な物を救出して下さい。福島県の重要な歴史を知るものだと思います。（後世に伝える）（M.W）

★ 仕事で遅れて、後半30分しか参加できず、申し訳ありません。（K.A）

★ 無形文化財も有形文化財も合わせて、一緒に活動していくことを今回の話で痛感しました。（Y.I）

★ 以前から関心のあるテーマでしたが、まとまった話を聞く機会がこれまでなかった。非常に面白かったし、実情もよくわかった。震災ミュージアムができればいいと思う。（Y.I）

★ 故郷を追われた無念さの一つは、経済基盤だけではなく、住民が形作ってきた文化、文化財を破壊されたことにある。コミュニティの基盤としての文化・伝統の大きさを感じています。コミュニティの再生は、文化・文化財や伝統の承継を抜きにして考えられないような気がします。コミュニティの核であると思います。文化を大切にする福島県になっ

て欲しい。(T.K)

★ 地味な分野の仕事を一生懸命されている事に敬服しました。また、無形文化財が住民と地域をつなぐものという面はとても大切な点と思いました。社会の基礎を支える分野の仕事を是非協力に進めてくださるよう期待しております。

=====  
【予告】 第51回ふくしま復興支援フォーラム」(2013年11月20日(水) 18時30分～)  
テーマ 「子ども被災者支援法の現状と弁護士会の活動」(  
報告者 榎裕康氏(弁護士・福島県弁護士会副会長)  
会場 福島市 市民活動サポートセンター  
A会議室 チェンバおおまち3F(福島市大町4-15)

=====  
【予告】 第52回ふくしま復興支援フォーラム」(2013年12月5日(木) 18時30分～)  
テーマ 「ふるさとの復興(福幸)に向けて  
～かあちゃんの力・プロジェクトが目指すもの～」  
報告者 塩谷弘康氏(福島大学教授)  
会場 福島市 市民活動サポートセンター  
A会議室 チェンバおおまち3F(福島市大町4-15)

=====  
【予告】 第53回ふくしま復興支援フォーラム」(2013年12月19日(木) 18時30分～)  
テーマ 「飯舘村での放射線汚染調査と初期被曝評価プロジェクトについて」  
報告者 今中哲二氏(京都大学原子炉実験所)  
会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」 大活動室1  
MAX ふくしま4F(福島市曾根田町1-18)

=====  
【予告】 第54回ふくしま復興支援フォーラム」(2013年12月26日(木) 18時30分～)  
テーマ 「エネルギー革命による地域の自立 ～会津電力設立の経験から～」  
報告者 佐藤彌右衛門氏(会津電力株式会社・社長)  
会場 福島市 キッチンガーデン 2階 (福島市栄町10-5)  
=====